

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 思永 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

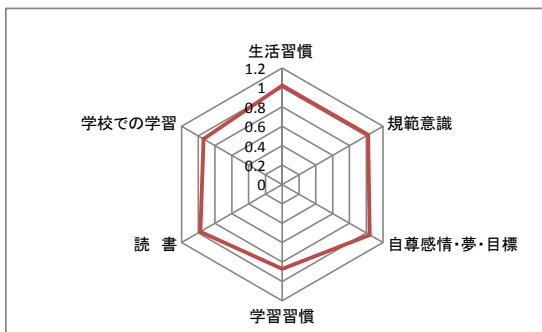
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をやや下回っていたが、書く能力については、やや上回っていた。 ・話す・聞く能力については、授業の中でも活動を取り入れながら、能力を向上させる必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伝えたい事柄についての根拠を明確にして書く事については、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	奥付を使って本の情報を得る問題では、無解答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をわずかに下回っていたものの、昨年度より上昇していた。 ・自分の考えを書くといった記述式の問題では正答率が低く、書くことを習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	読む能力における、目的に応じて文章を要約する問題と情報を読み取る問題では、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	自分の考えを書くといった記述式の問題では、正答率が低く、無解答率も高かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っている。 ・選択問題では無解答率は低いが、短答式の問題になると、無解答率は高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数と式に関する問題では、正答率はやや高かった。	
	努力が必要な問題	自分で考えて式を作る問題では、正答率が低かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っている。 ・記述式の問題では全体的に正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数と式に関する問題では、全体的に正答率はやや高かった。	
	努力が必要な問題	図形や証明などの記述式の問題では、正答率が低く、無解答率も高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣や規範意識では、全体的に昨年度よりポイントが上がっている。 ・自分にはよいところがあると思っている生徒と人の役に立ちたいと思っている生徒の割合が増加した。 ・学習習慣では、自分で計画を立てて、勉強している生徒の割合は全国平均より低く、再度家庭学習の勉強の仕方について指導が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

全学年で朝自習の時間を活用し、漢字や英単語の反復練習とそのテストを行うなど、基礎学力の定着を図っている。しかし、文章を読み答えを書く、自分の考えを書く問題に対しての正答率は全国平均よりも低いので、教科指導を通して「読む活動」「書く活動」を取り入れ、文章を読み取る力、自分の考えを書

② 家庭生活習慣等に関する取組

学習では、「自分で計画的に学習する」、「家庭で授業の復習をする」生徒の割合は全国平均よりも低い。そのため、家庭で計画を立てて勉強する方法と復習を中心に家庭学習に取り組む方法について、担任と各教科担任から再度アドバイスを。また、どの教科も宿題を出すことで、計画的に家庭学習の習